

5-4 業界の将来を担う若手技術者の主体的活動

5-4-1 「業界展望を考える若手技術者の会」の設立経緯

「業界の将来を考えているのは経営幹部ばかりだった。しかし、業界の将来を担うべき存在は誰なのか。我々若手世代ではないか。であれば、若手自らが業界の現状を憂い、明るい未来を描き、実現に向けて今から行動すべきでないか。」

そうした問題認識を持った若手が協会に嘆願し設立された若手組織が、「業界展望を考える若手技術者の会（設立：平成 27 年（2015 年）4 月）、新体制：令和 3 年（2021 年）7 月」（以下「本部若手の会」という。）である。

【ミッション】若手の力で業界活性化の一大ムーブメントを興す

【目標①】若手目線での建コン業界への問題提起

【目標②】若手主体の企業変革アクションの実践

【活動方針】

- ・ゼロからイチをつくる（イノベーター）
- ・心に火をつける（モチベーター）
- ・人をつなぐ（コネクター）
- ・うねりを大きくする（インフルエンサー）

5-4-2 本部若手の会の活動紹介

本部若手の会では、アンケート調査、各種イベント（業界内のみならず、異業種企業とも連携）の開催等を通じて、協会に提案や要望を行っている。また Facebook やメルマガによる広報活動に加え、業界関係紙等にも掲載されている。

令和 3 年度（2021 年度）に行った各種活動を以下に示す。

①委員会活動

2020.9～2021.4：「次世代人材と経営層の意見交換会」

②各種イベント

2021.07：プレゼンテーションセミナー「プレゼンの醍醐味」

2021.12：チームビルディングを学ぶウェビナー「若手世代からボトムアップでチームを作る・変える方法を学ぶ」

③広報活動

Facebook「建コン 4.01（ケンコン・フォース）」

ウェブサイト「Kenconnect（ケンコネクト）」

オンラインサロン「建コンアップデート研究所」

5-4-3 若手世代が考える業界の在るべき働き方

（1）建コンで働く若手のシゴト観

平成 29 年（2017 年）8 月に、建コン企業で働く 20～30 代の若手技術者約 1,200 人を対象としたシゴト観アンケートを行った。本部若手の会では、以下に示すような現状と理想のギャップを

解消しモチベーション高く働くにはどうすべきかについて様々な取組みを展開している。

○若手のシゴト観

『日常に忙殺されストレスを感じたり、頑張っても報われないことにしばしば無気力感を感じながらも、漠然とだが技術者としての成長や仕事の社会的意義を感じ取り、なんとかモチベーションを保っている。また、将来に対してははっきりした夢や希望を持たず、いつかは転職という選択肢も頭によぎりながら、日々悶々と仕事をしている。』

○志向する働き方

『たとえ収入が少なくなっても、仕事とプライベートのバランスを取りながら働きたい。また、会社への帰属意識よりも、1人の技術者としての自分がやりたいことや夢の実現、知的好奇心・興味関心ある仕事を通して成長することで、社会から認められる働き方』

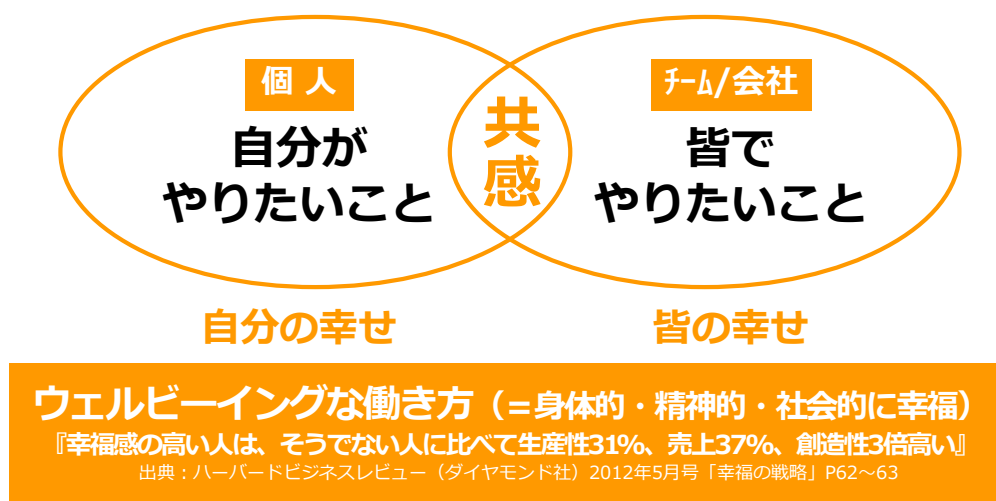
(2) エンゲージメントを高めるための処方箋

1) エンゲージメントが高い状態とは

- ①仕事のやりがいや自由裁量の実感など「個人」で幸せな働き方ができている状態（職務）
- ②チームで協力して働くことや感謝・承認があること、チャレンジングの文化が定着しているなど、「チーム」で心理的安全性が確保されている状態（組織風土）
- ③ミッションやビジョンに共感でき、会社（経営陣）に対する信頼がある状態（理念戦略）

2) エンゲージメントを高めるための処方箋

具体的な処方箋としては、図 5-4-1 に示すように個人ではセルフコーチングや越境学習など、チームでは心理的安全性やコーチ型リーダーシップなど、会社ではミッション・ビジョンの共有や自由裁量の拡大などに取り組んでいく必要がある。



【個人でやること】

- ・セルフコーチング
- ・マインドフル、ヘルスケア
- ・越境学習（弱い紐帯）

【チームでやること】

- ・心理的安全性
- ・コーチ型リーダーシップ
- ・1on1(対話)、ピアー・ア(賞賛)

【会社でやること】

- ・ミッション、ビジョン共有
- ・自由裁量の拡大
- ・情報オープンネス

図 5-4-1 建コン業界のエンゲージメントを高めるための処方箋の体系

5-4-4 若手世代のアクション

本部若手の会は、上記のような問題意識を共有するとともに、「アクションなくしてリアクションなし」をスローガンに、業界をアップデート（最新のものに更新）するためのアクションを積極的に展開している。

（１）次世代人材と現経営層との意見交換会

建設コンサルタント各社の 30～40 代中堅職員 14 名を対象に、業界が抱える本質的課題や業界の将来ビジョンを正しく理解し業界改善・活性化に向けて主体的に行動していくことを目的に、各社経営層との意見交換会を行った（表 5-4-1）。

開催概要は以下の通りである。

- （第 1 回）議 題：「建設コンサルタントの要望と提案」について
経営層：対外活動委員長（株式会社建設技術研究所代表取締役社長 中村哲己氏）
- （第 2 回）議 題：「建設コンサルタント白書」について
経営層：白書委員長（株式会社ニュージェック代表取締役社長 吉津洋一氏）
- （第 3 回）議 題：「建設コンサルタントビジョン 2014」について
経営層：ビジョン策定時委員長（株式会社建設技術研究所代表取締役会長 村田和夫氏）
- （第 4 回）議 題：今後の建設コンサルタント業界・企業・技術者の在り方について
経営層：協会会長（日本工営株式会社代表取締役会長 高野登氏）
- （第 5 回）議 題：次世代人材と経営層の意見交換会成果報告書（案）について
経営層：総務部会長（株式会社社長大代表取締役社長 永治泰司氏）
- 注）経営層の役職等は意見交換会当時（令和 2 年（2020 年））のものである。

表 5-4-1 次世代人材と経営層との主な意見交換

次世代人材からの問題提起・提案	経営層からの回答
Q：「要望と提案」を基にした国交省等との意見交換会について、上層部だけでなく現場を最もよく知っている若手中堅世代でも交流の機会を持ちたい。BIM/CIM 等の事業推進や働き方改革の進展にも寄与するはず。	A：「要望と提案」は、技術者単価の上昇、工期の平準化、就業環境の改善など大きな成果が出ている。若手中堅世代同士が交流することで、現場レベルでの現状改善が期待できる。
Q：建設コンサルタントは、オフィスワークが多くテレワークがやりやすいと考える。業界全体で PR できればノー残業デーの成功のようなイメージアップにつながるはずだ。	A：今般のコロナ禍でのテレワークを一過性にしないためにも、現在協会内でガイドラインを作成中だ。今後、発注者とテレワーク体制維持について協議する予定だ。
Q：事業推進 PPP や PFI、DB、ECI など、発注者と建設コンサルタント、ゼネコンの各職種を超えるようなマネジメント力、技術スキルが求められるようになってきている。その時の技術者個人の成長や育成はどう在るべきか。	A：技術者個人として設計のプロを志す人、事業全体をマネジメントする人など様々だが、いずれの場合も技術革新なくして明るい未来は描けない。これまでの建設コンサルタントの枠にとどまることなく、社会の要請に応えられるよう研鑽していくことが重要だ。
Q：協会では、周年事業でビジョンや中期行動計画を策定しているものの、1989 年策定の ATI 構想以降、産官学での大規模な体制で業界ビジョンは策定されていない。建設 DX、コロナ、働き方改革など社会情勢が大きく変化しているこのタイミングに、改めて業界ビジョンをまとめ、業界内外に発信すべきと考える。	A：激動の時代だからこそ、若手技術者自身が、建設コンサルタント技術者及び企業・業界としての在りたい姿や提言をまとめ、協会会員はもちろん学識者、発注者、関係団体から意見をいただいて、その実現に向けて行動していくことが重要である。

(2) オンラインサロン「建コンアップデート研究所」

若手の会の活動では、サイボウズや Google、パソナなど異業種の働き方先進企業との勉強会や、国交省道路局とのコラボ企画、建設コンサルタントの各社経営層との意見交換会など、精力的に活動を行ってきた。参加したメンバーの中には、こうした活動を通して入手した情報や知識、ノウハウなどを自社に持ち帰り、若手発意で会社変革アクションを企画提案し、実行するような動きがいくつか見られるようになった。そして、そうした成功体験を若手ネットワーク内で情報共有したことをきっかけに、自分もやってみようと、他のメンバーが自分の所属会社へアクションを提案するということが生まれてきた。

A 社：働き方改善アクションを提案し実現（リモートワーク、服装自由化、健康経営等）

B 社：生産性向上を目的に、ワークフローの電子承認化を提案し、自社システムとして採用

C 社：社内メンバーを募り、企業内に若手有志組織を設立し、活動を展開

D 社：社内に働き方改革ワーキンググループを設立し、全社的な働き方改革に着手

こうしたアクションの連鎖現象をより大きなうねりにするために、本部若手の会が主導して、オンラインサロン「建コンアップデート研究所」を立ち上げた。本サロンは無料で、建コン企業で働く者であればだれもが入会できることとしている。

令和4年（2022年）6月現在、100名を超えるメンバーが参加しており、日常的にオンライン上でコミュニケーションを行い、時にオフラインでのイベントを開催している。



オンラインサロン
「建コンアップデート研究所」

5-4-5 支部の若手活動

(1) 北海道支部

1) 北海道支部若手の会の活動内容

北海道支部若手の会では定例会、各種交流会等を通じて、建コン業界で働く若手技術者が抱える課題について共有し、課題解決へ向けて協会に提案や要望を行っている。また、北海道支部創立50周年記念イベントとして開催した「ケンコンお仕事体験」において運営協力を行った。

設立から令和2年度（2020年度）までに行った各種活動を以下に示す。

■委員会活動

2018.01：北海道支部若手の会設立

2018.05～：定例会開催（おおむね2か月に1回開催）

2019.01：北海道支部若手の会 Facebook 開始

■各種イベント

2019.01：若手技術者交流会

2019.05：北海道支部50周年 若手の会座談会

2019.07：若手技術者を対象としたミス防止講習会・交流会

2019.07：北海道支部50周年記念イベント「建コンお仕事体験イベント」運営協力



建コン業界の若手社員を対象に、業界の活性化をテーマにワークショップを実施（2019.01）

写真 5-4-1 若手技術者交流会

2) 北海道支部若手の会のこれから

北海道支部若手の会では、これまでに実施してきた活動の継続に加え、今後は以下の活動を実施する予定である。

■ アンケート調査の実施

ポストコロナ・テレワーク時代に向けた情報収集・情報提供を目的とした、アンケート調査を行う予定である。アンケートは建コン業界の若手社員を対象に実施し、これまでのテレワークの実施状況や課題について調査・分析を行い、北海道支部会員企業に対して、働き方改革に寄与できるような情報提供を行いたい。

■ 若手技術者交流会

発注機関の若手技術者との意見交換会・交流会を開催する予定である。

（2）東北支部

1) はじめに

東北支部若手の会（以下「東北若手の会」という）は、平成 28 年（2016 年）7 月に設立され、イメージ WG、調査 WG、交流会 WG の 3 つの WG に分かれて活動している。

■ 活動目的

- ・ 東北に働く技術者として、東北地方の建コン業界を発展させるための起爆剤とする。
- ・ 若手技術者同士が本音で語り合い、将来にわたって良質な関係を保つことで、業界を活性化させ、リーダーとして活躍する人材となれるよう、切磋琢磨できる会とする。

2) イメージWGの活動報告

業界内の横断的交流、業界外（学生含む）からの建設コンサルタントの理解度向上を目的に、アカウントを開設している SNS（Facebook、Instagram、Twitter）を用いて、定例会や各活動実績、東北若手の会のメンバー紹介、OB 挨拶等に加えて、技術者の日常を投稿した。



東北若手の会 Facebook



東北若手の会 Instagram



東北若手の会 Twitter

3) 調査WGの活動報告

若手目線の建設コンサルタントの魅力を学生に発信し、就職活動へ役立ててもらうことを目的に、若手技術者インタビュー調査を実施した。

【調査対象】 20～30代の若手技術者（5名）

【調査時期】 令和3年10月

【調査方法】 Web（ZOOM）



写真 5-4-2 配信用インタビュー動画キャプチャ

■インタビュー調査の概要

インタビューのなかでは、「災害を通して、国民や国土を守っていききたいと思った（建設コンサルタントを目指したきっかけ）」、「自分が設計したインフラが形になり使われているのを見ると感慨深い（やりがい）」、「自分の専門分野を極めていきたい（今後の目標）」、「自分の興味・関心は働く上でその動力となると思うので大切に考えてほしい（就活生へ一言）」などの回答を頂いた。

会社説明会では聞くことのできない若手技術者個人の思いや詳細な仕事内容、プライベートの過ごし方、労働量と給料のバランスなども引き出すことができた。この内容はインタビュー動画にし、動画配信サイトやSNSで発信することで広く学生に届けたいと考えている。

また、就活生だけではなく、同世代のインタビューを聞き、刺激を受けることで、若手技術者の仕事に対する向き合い方やモチベーションの向上に繋げたい。

4) 交流会WGの活動報告

建コン業界の枠にとどまらず、土木業界の魅力度向上や活性化の一助の機会とすることを目的に「整備局若手職員交流会」を企画・開催した。

【開催日時】 令和3年12月17日（金）14：30～17：30

【開催方法】 対面開催（東北地方整備局）

【参加者】 東北地方整備局 若手職員（10名）、東北若手の会（12名） 計22名

【プログラム】 グループディスカッション

「テーマ1：業界に入った時の思いと現在」

「テーマ2：お互い（整備局・建コン）に求められるもの」



写真 5-4-3 整備局若手職員交流会の様子

■整備局若手職員交流会の概要

東北地方の建設業界を担う若手が立場の垣根を超え、技術交流や良好な関係作りを目的に意見交換を行った。テーマ1では、自己紹介を兼ねて業界への思いを語り、テーマ2では、円滑な事業推進や技術力向上に必要なものについて意見交換を実施した。会の意見をまとめると、「積極的なコミュニケーションにより、技術を双方で補い・頼れる良好な関係作りを普段から心掛けることが重要」「自然災害の頻発化・激甚化に伴い、災害時の連携・協力が重要」となり、技術力向上を目的とした機会（勉強会・現場見学会）の他、災害時を見据えて円滑に対応が可能となるよう定期的なコミュニケーション機会も必要などの意見が挙げられた。

表 5-4-2 テーマ2の主な意見

【キーワード1：コミュニケーション】	
・何を進めるにしても双方の積極的なコミュニケーションと良好な関係構築が重要 ・相互理解（双方の作業内容、流れを把握すること）、思いやりの心が重要 ・双方の組織内で、横の風通しを良くすることで、事業を円滑にすることが重要	
【キーワード2：品質確保】	【キーワード3：人材・技術力向上】
・事業の趣旨を双方で理解し、プロセスを最短化することが重要	・若手技術者の育成が重要 ・技術交流の場の創出が重要
【キーワード4：生産性・働き方】	【キーワード5：東北の魅力創出・発信】
・余裕のある心を持ち仕事にあたることが重要 ・i-Constructionを推進するほか、新技術を積極的に活用して、生産性や効率を向上させることが重要	・東北6県の自然、食、文化等の魅力を、整備局と協会の協働で発掘し、発信することで、人材を確保することが重要

（3）関東支部

1）「関東支部若手の会」の活動目的

建設コンサルタント業界の将来を担う若手技術者として、業界の将来像と、現状の諸問題を考え、若手の力でできることを検討し、実施することを目的とする。

2）関東支部若手の会の活動紹介

関東支部若手の会では、定例会、アンケート調査、建コン企業の若手交流会の開催を通し、業界のイメージアップ及び業界全体の働きやすさ向上の検討、若手技術者の技術力向上やモチベーションアップを図る。

■令和3年度（2021年度）委員会活動

2021.06～2022.01：定例会 7回開催（おおむね月に1回開催）

2021.12：女性の会・若手の会合同WG「育休に関する検討会」

■世代間での意識傾向の把握を目的としたアンケート調査

【内容】建設コンサルタントに勤める20代～60代を対象としたアンケート調査の考察

【目的】・建設コンサルタント業界が直面する担い手不足や技術継承といった課題の解決を図るための基礎資料収集

- ・若手世代とベテラン世代の意識の違いを明らかにし、業界全体の働きやすさ、魅力の向上、世代間コミュニケーションの促進を図る。

【考察一例】

- ・クロス集計の結果、社内のコミュニケーションを大切にしている人ほど、働き方改革により労働環境が改善する傾向があると思われる。

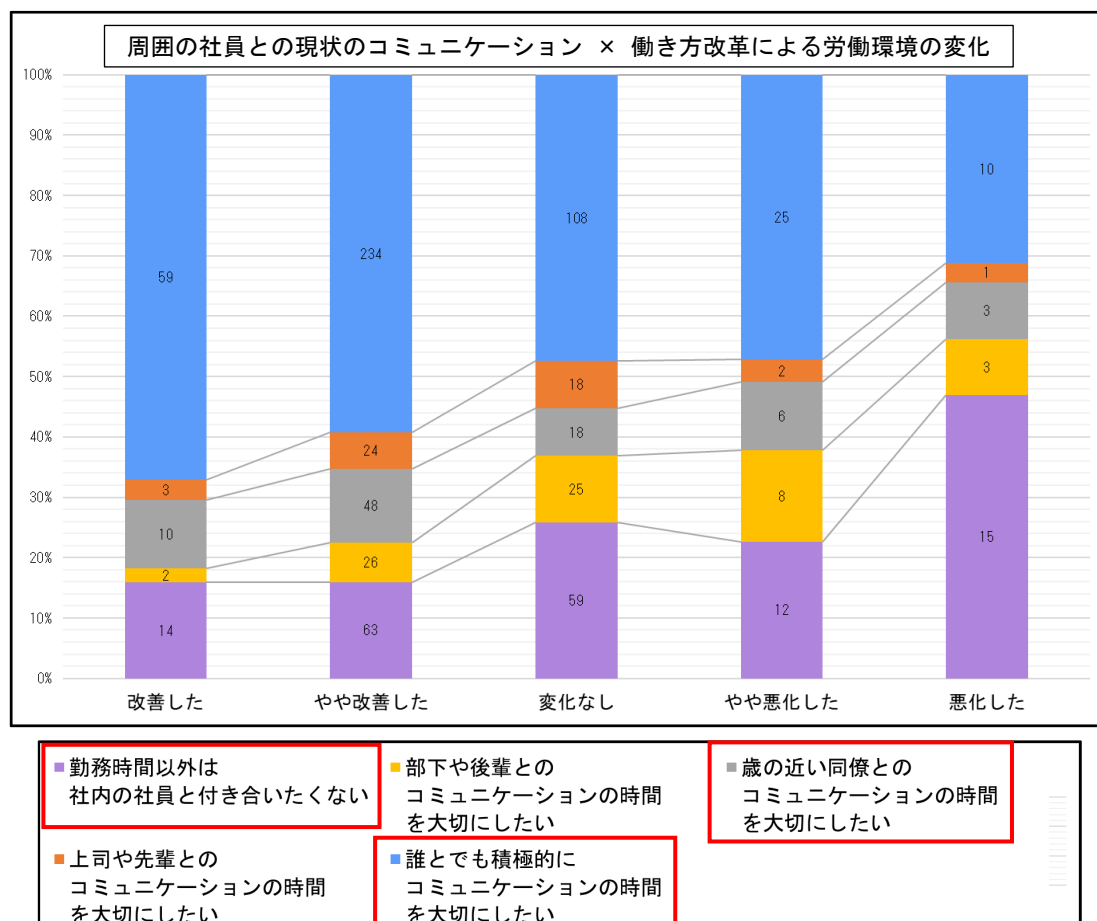


図 5-4-2 建設コンサルタントに努める 20 代～60 代を対象としたアンケート調査の考察の一例

■ 若手交流会

【内容】 建設コンサルタントに勤める若手社員を対象とした交流イベントの開催

【目的】 ・若手同士の連帯感を醸成することによる業界活性化

- ・企業外の人脈を得ることにより業界全体を俯瞰する広い視野を持つきっかけ作り
- ・若手技術者のコミュニケーション能力、リーダーシップ能力の向上

【過去の活動】

2014.09：第 3 回若手交流会「建コンの未来を創ろう」

2015.07：第 4 回若手交流会「補強をテーマにした工作競技イベント」

2016.09：第 5 回若手交流会「コンセプトに沿った新聞紙タワー工作協議イベント」

2017.09：第 6 回若手交流会「工作用線形材料を用いた橋梁製作イベント」

2018.10：第 7 回若手交流会「まちづくり最強王決定戦」

2019.10：第 8 回若手交流会「こんな標識あったらいいね！選手権」

(4) 北陸支部

北陸支部若手技術者ワーキンググループでは、同世代の技術者がお互いに刺激し合い、仕事に対するモチベーションや技術力の向上を図っていくため、若手技術者が集まり、日々の仕事内容などについて自由に意見交換ができる場として、オンライン上でのグループディスカッション「皆でフックアップ！北陸建コン若手エンジニア 2021」を企画・開催した。

1) 開催概要

- 【開催日時】 令和3年12月10日(金) 13:30 ~ 17:00
- 【開催方法】 オンライン開催 (Web 会議形式)
- 【参加者】 北陸支部の若手技術者 (13 社 35 名)
- 【プログラム】
 - 1.開会挨拶・開催趣旨
 - 2.第1部：分野別ディスカッション
(業務での創意工夫や新しい取組み、仕事で失敗や反省した事など)
 - 3.第2部：フックアップディスカッション
(働き方改革の実践、業界 PR やリクルート活動に効果的な取組みなど)
 - 4.各グループからのまとめ発表・総評、閉会

2) ディスカッション概要

i) 第1部：分野別ディスカッション

第1部では、各グループ内で参加者から、ドローンや AI による画像処理の活用、BIM/CIM を用いた計画など、先進的な事例が紹介されるとともに、これらを普及・展開していくための現時点における技術的な課題などをディスカッションした。その一方で、上司や先輩社員が過去に実施した業務をそのままコピーして失敗したなど、若手技術者ならではの話題もあり、そこから何を学び、現在のキャリアにどう活かされたかといった議論があった。

ii) 第2部：フックアップディスカッション

第2部では、業務の効率化や働き方改革の実践、業界 PR やリクルート活動に有効だと思う取組みなど、建設コンサルタントの明るい未来の創造にむけて、グループごとに自由にディスカッションを行った。学生時代に建設コンサルタント企業へのインターンシップを経験したことで就職を志望した参加者も多かったことから、インターンシップのタイミングで如何に業界の魅力を伝えられるかが重要であるといった意見や、SNS の活用など若手技術者らしい感性に基づく業界 PR のアイデアも挙げられた。



図 5-4-3 グループディスカッションの様子(左:メインセッション、右:グループセッション)

(5) 中部支部

1) はじめに

中部若手の会 WG は、業界活性化／リーダーとして活躍する人材の育成／若手技術者同士の切磋琢磨を目的に、平成 29 年（2017 年）4 月から任期を 2 年として発足した。現在 3 期目として 12 名が活動している。WG の主な活動目的は以下の通り。

- ◆建設コンサルタントの将来を担うリーダーとして活躍する人材育成
- ◆業界 PR 活動の方法を模索し、建設コンサルタント業界の知名度向上、イメージアップを図る
- ◆業界の離職率ダウンを目指し、社員満足度の向上を図るための取組み内容の模索

令和 3 年度（2021 年度）の活動においては、引き続き業界 PR 活動の模索と、これまで実施できていなかった離職率ダウンを目的とした取組みについて実施した。

2) 中部若手の会の活動紹介

◆学生 PR① ～「イブニングサロン」への参加～

a. 参加目的

愛知県が主催する学生への業界 PR の場である「イブニングサロン」に参加して、就職活動を行う学生の方に対し“建設分野の魅力”を発信するとともに“建設分野に携わる若手人材の育成”を行うことを目的とした。写真はイブニングサロン開催時の様子。

b. 参加内容

R03.10.22	愛知県立愛知総合工科高等学校
R03.10.28	東海工業専門学校 金山校
R03.11.18	豊田工業高等学校

⇒若手の会 WG より各校それぞれ 1 名を派遣



写真 5-4-4 イブニングサロンの様子

◆学生 PR② ～「Job Café in 名古屋」の開催～

a. 開催目的

学生が職業選択を行うにあたって「建コン」について知る機会が、現状インターンシップや新卒採用向けの企業説明会など、特定の企業とのつながりに限られている。そのため、就職活動を控えた学生と若手技術者が自由に話すことで、学生側が「建コン」業界全体を知る機会と、有益な情報を得られる場を創出することを目的とした。

b. プログラム

R03.11.20 14:00～17:00

- I. 建設コンサルタントとは？
- II. 建コン若手のとある一日
- III. 建コンに就職を決めた理由
入社前後のギャップとやりがい
- IV. フリートーク



写真 5-4-5 Job Café in 名古屋の様子

⇒学生が気兼ねなく社会人に質問できるよう、カフェ形式を意識した企画。今年度は、新型コロナ感染拡大防止の観点から、会議室を利用した開催となった。
写真は Job Cafe 開催時の様子で、図 5-4-4 は企画後の参加者アンケートの結果である。

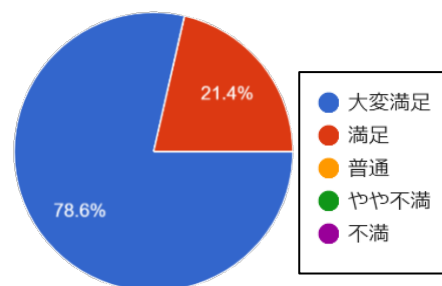


図 5-4-4 Job Café のアンケート結果

◆社員満足度アップに関する活動 ～現状把握を目的としたアンケートの企画と検討～

a. 活動概要

社員満足度のアップには、まず業界で働く方々の現状の想い（不満や障害となっていること／これらからの業界に必要と感じていること）を、把握することが必要と考え、現状を把握するために業界の方々を対象としたアンケートを企画。

b. アンケートの目的

- ・企業や業界に共通した課題、問題点を確認、要望事項としてまとめる。
- ・若手社員に共通した悩みや課題があれば、若手の集まる場や外部講師を招いた研修等の企画を開催 etc...

⇒アンケート配布：令和4年度予定

3) 中部若手の会の「これまで」と「これから」

新型コロナウイルス感染症により、日常の在り方が大きく変わった1年であった。私たち若手の会 WG でも、その影響から活動の制限や計画の頓挫などがあった状況下で、オンラインによる WG の実施、ジョブカフェの開催といった成果を残すことができた。

今後は、「新しい生活様式／ニューノーマル」が当たり前となり、「ポストコロナ」の時代に向けた活動の仕方を模索していく必要性を感じている。アフターコロナの時代に残されない建コン業界の在り方を考え、情報共有や連携強化、行動に移せるように努めていきたい。

(6) 近畿支部（魅力発信委員会）

1) 魅力発信委員会の概要

近畿支部では平成27年（2015年）から、若手技術者を主体に、担い手確保を目的に「魅力発信委員会」を設立した。建設コンサルタントの社会的地位向上、魅力向上策を検討するとともに、多様な媒体を活用して小学校から大学、高専及び一般社会への魅力発信を行っている。

魅力発信委員会では、令和2年度（2020年度）までは大学、高専へ業界の魅力をアピールする「学校訪問ワーキンググループ」、小中学生や一般向けに業界のことを知ってもらう「出前講座ワーキンググループ」、担い手確保・知名度向上を実現するために新たな企画を立案する「若手企画ワーキンググループ」の3ワーキングで構成されていた。令和3年度（2021年度）からは、日本橋梁建設協会近畿事務所、プレストレスト・コンクリート建設業協会関西支部と連携して進めている「橋の魅力発信プロジェクト」の建設コンサルタント部門活動として「橋の魅力発信ワーキンググループ」が加わり、4つのワーキングで活動している。

2) 令和3年度の活動状況

■学校訪問ワーキンググループ

関西大学、近畿大学、明石工業高等専門学校、舞鶴工業高等専門学校を対象として、建設コンサルタントの概要説明、キャリアパスの紹介、若手技術者の体験談の紹介、質疑応答等を実施している。なお、関西大学、近畿大学、舞鶴工業高等専門学校は対面形式で、明石工業高等専門学校は Web 会議形式でのワーキングを実施している。



写真 5-4-6 学校訪問（対面形式）の様子

■出前講座ワーキンググループ

生駒市サマーセミナーのオンライン（動画配信）に参加し、一般参加者向けに防災に関する動画を配信している。また、神戸市立丸山中学校より依頼を受け出前講座を実施し、社会インフラの概要や歴史、建設コンサルタントの役割について講義を実施している。

出前講座後のアンケートでは「楽しかった」「知らないことを学べてよかった」等の回答とともに「このような仕事があることを知ることができて良かった」「建設コンサルタントで働きたい」といったコメントも頂くなど、建設コンサルタント業界の知名度や魅力の向上に繋がったと考えられる。



写真 5-4-7 出前講座の様子

■若手企画ワーキンググループ

過去に4回実施したCM総選挙に代わる新たな企画案を複数検討し、実現に向けて内容の具体化を図っている。また、建設技術展2021近畿において開催された学生向けキャリア支援イベントでは、建設コンサルタントの説明者として参加し、建設コンサルタントの役割や魅力をアピールしている。



写真 5-4-8 建設技術展 2021 近畿でのイベントの様子

■橋の魅力ワーキンググループ

委員同士の交流を目的としたカルチャー（漫画、スポーツ、旅行など）の情報交換を行いつつ、市民に向けた橋の広報活動として、インスタグラムに橋梁や橋梁に関連する画像の投稿を行い、約 5,900 人のフォロワーを獲得している。また、若年層への魅力発信を目的として、過年度にはイラストレーター・漫画家の原田ちあき氏にイラストの執筆を依頼し、完成したイラストを広報材料として活用している。



(a) 過年度のスマホバッテリーの事例

(b) 原田ちあき氏イラスト

図 5-4-5 橋の魅力を発信する広報活動事例（原田ちあき氏とのコラボレーション）

(7) 中国支部

1) 概要

中国支部若手の会は、魅力ある建設コンサルタント業界を実現するために、若手技術者が業界の将来像や担い手確保などについて議論する場として、平成 28 年（2016 年）11 月に設立した。令和 3 年度（2021 年度）はメンバー 26 名で議論を進めた。

2) 活動内容

これまで中国支部若手の会では「業界 PR」と「生産性向上」の 2 つのワーキンググループに分かれ活動を行ってきた。

<業界 PRWG>

建設コンサルタント業は、「街や人の未来を考え、人々に幸せをもたらす夢のある仕事」であるが、一般的には認知されていない。業界 PRWG では、若手の視点で業界の魅力や社会インフラ整備の仕事を知ってもらうための PR 活動を企画した。

主な活動内容は、「建設フォーラムへの出典」、「子どもを対象とした土木実験教室（パスタブリッジ等）」、「リクルート活動（大学訪問）」等である。



写真 5-4-9 これまでの活動の様子（業界 PRWG）

＜生産性向上 WG＞

業界が抱える問題の一つに「生産性の低さ」がある。生産性向上 WG では、この『生産性の低さ』にスポットを当て、課題解決のための提言・活動を行った。

主な活動内容は、「若手技術者交流会」、「生産性向上に関する講演会」、「働き方改革をテーマにした交流会」等である。



写真 5-4-10 これまでの活動の様子（生産性向上 WG）

3) 令和3年度実施内容

表 5-4-3 に令和3年度（2021年度）の実施内容を示す。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い、Web による定例会議を2回実施し、次年度に向けた企画の検討を進めた。また、業界説明会に参加してリクルート活動を実施した。

表 5-4-3 令和3年度実施内容

日程	項目	主な内容
令和3年8月24日（火）	第24回定例会（Web）	・本部若手の会の活動報告 ・これまでの活動の振り返り ・令和3年度活動計画について
令和3年10月13日（水）	第25回定例会（Web）	・本部若手の会の活動報告 ・グループディスカッション
令和3年12月10日（金）～	リクルート活動	・中国地方の大学、高専へ訪問又は Web 形式

（8）四国支部

1) はじめに

四国支部若手の会（以下「四国若手の会」）は、建コン業界の発展・活性化を目的として、平成29年（2017年）9月に発足した。令和3年度（2021年度）のメンバーは27名である。

【活動目的】

島国四国に働く技術者として、建コン業界の発展・活性化を目的として活動し、また、若手の会での交流を通じてリーダーとして活躍する人材となれるよう、切磋琢磨できる会とする。

2) 活動内容

これまで四国若手の会では「生産性向上 WG」と「PR 活動 WG」の2つのワーキンググループに分かれて活動を行っている。

■生産性向上 WG の活動報告

令和元年度に建コンの『働き方』に関するアンケートを実施し、21社から貴重な意見を頂くことができた。令和2年度にアンケート結果を基に、若手の会で意見交換を行い、より良

い職場、より良い業界にしていくための若手の会からの意見をレポートとしてまとめ、令和3年度に各社に発信すると共に協会四国支部のホームページに掲載した。令和3年度で当WGを完結とし、これまでの活動について、報告書の作成を実施しているところである。

このアンケートの集計結果を目にされた皆様が何かを感じ取り、それが行動となって各組織、各社、業界の変革に積み重なる助力になればと思っている。

■PR 活動 WG の活動報告

四国若手の会が主催となり、令和元年度に夏休みの子供向けイベントとして、「橋梁点検車体験会」を開催した。子供達には、吉野川大橋の点検を橋梁点検車に乗って体験してもらうほか、橋についてのクイズや建コンの仕事紹介などを行い、興味を深めてもらった。

午後は会場を移し、チームワークを育てるゲーム「マシュマロチャレンジ」に挑戦してもらった。パスタのタワーのてっぺんにマシュマロを載せて、その高さを競うものですが、保護者の方も必死になり、大いに盛り上がった。

このイベントでの体験を夏休みの自由研究として学校で発表してもらうことで、多くの子供たちや先生などにも、広く「建コン」という業界を知ってもらえることを期待している。



写真 5-4-11 夏休みの子供向けイベント状況

3) 令和2～3年度活動内容

■四国地方整備局との若手交流会

平成30年度から、「発注者、受注者として立場の違いはあるが、若手として、同じ業界で働き、同じ問題、悩み（人材確保、職場環境改善、技術力向上等）を抱えていることから、意見交換により課題解決を図るなど、協同し、対外的にも魅力ある業界を目指す」ことを目的として、四国地方整備局との若手交流会を行っている。

令和2年度はコロナ禍によりWeb開催のみとなったが、約2年をかけ、「問題の抽出」「原因の分析」「解決策の設定」と議論を重ね、“若手の考え”及び“若手として取り組むべきAction＝実行策”として、以下の活動方針をとりまとめた。

- ①若手中心の現場見学、勉強会等を開催
- ②建設業界体験イベントを若手主導で開催
- ③意識改革（「仕事のチーム化」を合言葉に）
- ④業務書類関係等適正化検討WG、WEB会議推進委員会等の開催を若手から組織に働きかけ

上記実行策のもと、「これからの業界を担う若手自身が行動を起こす」ということを意識

し、この交流会を継続していきたいと考えている。



写真 5-4-12 四国地方整備局との若手技術者交流会状況（対面・Web）

■若手技術者交流会 in 四国及び定例会

若手技術者交流会ではサイボウズ株式会社（松山オフィス）にて、次世代を担う若手目線で、これからの業界のあり方や働き方について忌憚のない意見交換を行い、今後の仕事等に役立てることを目的に、サイボウズ式問題解決メソッドについても学んだ。

参加したメンバー各班で決定した主なテーマは、「仕事の偏り問題」「残業多い問題」「部下の教育・指導難しい問題」「年の差ありすぎる問題」などで、サイボウズ式問題解決メソッドより、原因・課題などの追及を行い、グループワークを行った。



写真 5-4-13 若手技術者交流会 in 四国開催状況

四国若手の会では定例会を年 4 回程度実施しており、近年ではメンバーも増え、活動の場も拡大している。今年度は交流会、定例会とも Web 形式などを併用しながら、コロナ禍でも可能な範囲で活動を行った。

4) 協会表彰

四国若手の会はこれまでの活動（「若手技術者交流会」「発注者との交流会」「夏休み体験イベント」「リクルート活動」）等が評価され、令和 3 年度に協会表彰「功績賞」を頂いた。今後も魅力ある業界を目指し活動が続けたいと思っている。一気に広まった「オンライン」



図 5-4-6 協会からの表彰状（令和 3 年度功績賞）

という場を活用し、新しいやり方を考え、若手から活発に発信していきたい。

（９）九州支部

１）これまでの経緯

九州支部では、2015年（平成27年）の「本部若手の会」が設立して以来、その活動を支部活動の一環として各社に展開してきた（ムーブメントの展開）。

しかしながら、これからの建設コンサルタントを担っていく若手にとって、より働きやすく、より活躍できる職場環境を創出していくためには、若手自らが考えて行動し発信していくことが極めて重要である。そのため、支部に在籍する若手有志により、平成30年（2018年）に「九州支部若手技術者委員会」を結成し、活動を本格化させた。

結成当時は既に他支部の若手組織が活動を活発に行っており、全国的には後発といった印象であったが、これを逆手に取り、他支部の様々な活動をじっくり分析することで、地域性も踏まえながら、九州支部として最良と思われる活動の方向性などが模索できた。

現在は発足3年目を迎え、コロナ禍において各種活動が制約されつつも、若手ならではの自由で臨機応変な発想を忘れないよう心がけながら活動を行っている。

２）活動紹介

九州支部の活動は、学生に向けた活動（JOB CAMPUS）、会員に向けた活動（JOB STATION）、広報活動（魅力広めるっ隊）の3つのコンセプトを主軸に行っている。これらの活動は、参加する若手委員としても、日頃の業務に対するやりがいの再考の場にもなっており、各人のモチベーションアップに繋がっている。

①学生に向けた活動（JOB CAMPUS）：JOB CAFE、大学出前講座の開催

学生が”建設コンサルタント”の実情を知る機会は限られるため、業界で働く若手社員の生の声を届け、より有益な情報を得られる場の創出を目的に、JOB CAFEを毎年開催している。カフェにて飲食も交えたラフな雰囲気とし、企業説明会などとは違った経験ができると好評である。

他には、大学生の就活は3年生であることが多いため、土木業界の三本柱（発注、施工、設計）の概説と、建設コンサルタントの役割やその魅力を学生時代から知ってもらう機会として、就活前の1、2年生を対象にした大学出前講座も開催している。

②会員に向けた活動（JOB STATION）：若手技術者交流会、その他意見交換会の開催

これからの業界を担っていく若手技術者の人的ネットワークの拡充やプレゼンテーション能力の向上、自己啓発の場として、若手技術者交流会（技術発表会）も毎年開催している。技術的な内容だけでなく、個人的な技術者像や抱負等も発表内容に盛り込むことで、同年代の若手技術者が気づきを得ることを期待している。

また、他組織とも積極的に交流し、建設コンサルタントとしてのこれからの再考する場として、九州支部の女性技術者や国土交通省九州地方整備局の若手職員との意見交換会を開催した。

③広報活動（魅力広めるっ隊）：SNS（facebook）の開設、その他広告活動

一般の人々に建設コンサルタントを広く知ってもらうことを目的とした各種活動を行っている。これまでの実績としては、SNS（facebook）の開設や、情報発信に使用するロゴの作成を行っ

てきたが、昨年度は都市部における路線バスに広告を掲載する試みを行った。また、ニュースレターを近日発刊予定のため、乞うご期待ください。



写真 5-4-14 JOBCAFE の様子(2018 年)



写真 5-4-15 若手技術者交流会の様子(2021 年)



写真 5-4-16 大学出前講座の様子(2020 年)



写真 5-4-17 女性技術者との意見交換会(2019 年)



写真 5-4-18 整備局若手との意見交換会(2019 年)



写真 5-4-19 路線バス広告(2020 年)